新発田市立佐々木中学校　学校だより　平成29年度　第７号　平成29年7月13日発行

# 佐々木中学校だより

教育目標
よく考え、進んで
実践する生徒

E-mail sasaki-jhs@inet-shibata.or.jp　電話　０２５４（２７）２５０５

## 勝とうとする気持ちは100%だった

勉強しなくても　頭がよくなりますように。

いい事がたくさん　ありますように。

7月7日　七夕の願い

１３歳、１４歳の中学生の活躍が日本中の注目を集めています。同じ中学生であるトッププレイヤーの活躍をよい刺激として、佐々木中生も、自分が目指している目標の実現に向けて、粘り強く、そして大きな志をもって取り組んでくれることを願っています。

１４歳の中学生は、将棋界の藤井聡太４段です。デビュー以来の公式戦２９連勝が社会的な事象として扱われ、ニュースや新聞を通じて、将棋をよく知らない人も含めて多くの人たちが藤井４段の勝負の行方に大きな関心を抱きました。３０連勝は惜しくも阻まれてしまいましたが、その次の対戦では勝利を収め、新たな連勝記録に向けての快進撃が始まりそうです。１３歳の中学生は、卓球界の新星、張本智和さんです。６月始めまでドイツで開催されていた世界卓球選手権での個人戦２回戦で、日本のエース（オリンピックメダリスト）水谷隼選手を４－１で下し、ベスト８入りしました。

水谷選手との公式戦での対戦はこの試合が初めてだったということです。張本選手との対戦を前に水谷選手は、「特別なことは何もしないし、気楽にやりたい。彼（張本）がこういう舞台でぼく（水谷）を倒したら頼もしいと思いますね。」と語っていました。一方の張本選手は、「**勝つ可能性は５%だと思っていたけど、勝とうとする気持ちだけは１００%だった。**」と試合前の気持ちを話しています。水谷選手も張本選手も世界を舞台に戦っているプレーヤーですから技術面のレベルが高いことは当たり前ですが、張本選手の上記のコメントからは、わずか１３歳とは思えない精神面（メンタル面）の強さが伺えます。

さらに、今回の世界大会でのベスト８について周囲から「史上最年少記録」と讃えられていることについても、張本選手は「**最年少と言われても年齢は物ではないし、（もし準々決勝で勝ちベスト４入りができていれば）メダルは死ぬまで持っていることができる物。“最年少”とかは誰でもが言えるけど、“メダル”は世界で４人しかもらえない一生の宝物。準々決勝まで勝ち上がったからにはメダルを獲りたかった。メダリストと言われたかったから、本当に悔しい。**」と、自分の成し遂げたことへの喜びではなく、悔しさだけを口にしています。

張本選手は大会後のインタビューでも、将来を見据えながら、次のような目標を話しています。「**１３歳でベスト８に入ったことは自信になる。３年後のオリンピックで金メダルを獲るための大きな一歩となりました。この結果に満足せずに、２年後の世界選手権では金メダルを獲りたい。**」

中学校の部活動にかかわる中学校体育連盟主催の大会も新発田市内大会、下越地区大会が終わり、７月 14 日の通信陸上大会や７月 22 日・23 日の新潟県総合体育大会、そして８月２日からの北信越大会という大きなステージが近づいてきました。

現・高校３年生の早稲田実業高校　清宮幸太郎選手が東・西東京大会開会式で述べた選手宣誓を元にすれば、これからの上位大会で戦う生徒のみなさんには「**青春のすべてをかけて戦うことができる幸せと喜びを、支えてくれるすべてのみなさまに感謝し、〈スポーツ〉の素晴らしさが伝わるように、〈スポーツ〉の神様に愛されるように全力で戦**」ってきてほしいと思います。応援しています。

# 佐々木小学校でのあいさつ運動

６月 26 日（月）～28 日（水）までの３日間の毎朝(7:40～8:00)、佐々木中学生が佐々木小学校児童玄関前で、登校してくる小学生たちと明るく朝のあいさつを交わし合う「あいさつ運動」を行いました。各学年から 10 名前後の生徒たちが進んで参加してくれました。登校してくる小学生とあいさつを交わすだけでなく、互いにハイタッチしながら交流を深めることができました。

小学生のみなさんから中学校や中学生を身近に感じてもらえるよい取組になりました。

**３年男子Ｔ**

小学生とあいさつを交わして、「あいさつは気持ちがいいな」と思いました。ハイタッチで「おはようございます」と言ったら、小学生も元気よくあいさつをしてくれてうれしかったです。朝から笑顔でさわやかなあいさつをすると気持ちが良かったので、これからは元気よくあいさつをして、小学生・中学生がお互いに良いスタートを迎えたいと思いました。あいさつ運動はいい活動でした。

**３年男子Ｙ**

あいさつでは声が大きいことだけじゃなくて、たとえば笑顔であいさつするなど表情も大切なのかなと思いました。応援団の人たちだけじゃなくて、全校のみんなで笑顔であいさつできるような活動にしたらいいと思いました。

**２年女子Ｆ**

あいさつをすることがとても楽しく、朝から良い気分になれました。ですが、登校してくる小学生のなかには緊張しているのか、私たちと目を合わせてくれない人もいたので、お互いに目を見て挨拶をしたかったなと思いました。

**２年男子Ｔ**

小学生も元気よくあいさつを返してくれたので、とても気持ちよくあいさつ運動をすることができました。また今回のようなボランテイア活動があればやりたいと思いました。

**１年女子Ｋ**

最初は、小学生とあいさつをするだけだと思っていましたが、ハイタッチもすると聞いてとても驚きました。なぜなら、小学生が私たち中学生とタッチしてくれないのではないかと思ったからです。でも、小学生はあいさつもハイタッチもしっかりとしてくれました。とてもうれしかったです。私はなるべく相手の目を見てあいさつするようにしました。でも、時々声が小さくなってしまったので、これからは声の大きさにも気をつけてあいさつをしたいと思います。

**１年男子０**

小学生のみなさんほとんどがあいさつをしてくれたのでよかったです。ですが、大きな声であいさつできる人、小さな声であいさつする人、しない人がいたので、全員が大きな声であいさつをしてほしいです。班長の人がしっかりと大きな声であいさつできたら、もっといいのになと思いました。

**１年女子Ｓ**

小学生の人たちと交流できてとてもよかったです。理由は、笑顔になれるからです。私は普段もあいさつをしていますが、「心から笑って、笑顔であいさつする」ということがあまりなかったけれど、小学生とあいさつを交わすときには、なぜか笑顔であいさつができたからです。小学生は、「人を笑顔にする何かをもっている」んだと思えたので、いいなと感じました。久しぶりに笑ってあいさつができて気持よかったです。あいさつ運動にまた参加したいです。

**１年男子Ｇ**

小学生に大きな声であいさつをしました。みんなとてもいい笑顔であいさつを返してくれました。ハイタッチはとてもよかったと思います。中学生と交流できて小学生もうれしそうでした。来年もやりたいと思いました。

# 下越地区大会①　女子４×100ｍリレーが優勝！

**３年女子Ｇ**

スタート！

第１走者として心がけていることはスタートです。私は第２走者にバトンを渡すまでに１人追い越すという目標を立てました。下越大会では予選レースでも、決勝レースでも、１人追い越すことができてよかったです。また、バトンパスもうまくいきました。決勝では出ませんでしたが、予選では 50 秒台のタイムを出すことができてよかったです。今よりももっと上の大会に行きたいので、これからきつい練習も積極的にやっていきたいです。まずは、通信陸上大会（７月 14 日開催）で 50 秒前半のタイムが出せるようにがんばります。

**３年女子Ｉ**　私は第２走者として、早出しないことを心がけました。下越大会は県大会につながる大事なレースだったので、“絶対にバトンを落としてはいけない”と思ってがんばりました。今回の大会では、50 秒台のタイムを出すことが目標でした。予選でこの目標は達成できましたが、決勝では 50 秒台を出すことができず、悔しい思いをしました。この悔しい思いを忘れずにこれから行われる通信陸上大会や県大会で 50 秒前半を出し、北信越大会への出場を目指します。そのためには、日々の練習でけがをしないように気を付け、大会で良い結果を残せるようにがんばります。

1走から2走へ

**３年女子Ｈ**　私はリレーの第３走者です。下越大会は県大会につながる大会で、私は絶対に１位になって県大会へ進むこと、自分たちのベストタイムを切ることを目標にしてがんばりました。私は、１日目の予選では応援のみだったのでいつもよりたくさんアップをし、本番に挑みました。そして、予選で自分たちのベストタイムを切ることができ、１位で県大会に進むことができました。佐々木中学校のリレーチームは、通信陸上大会、県大会に出場します。どちらもとても大きな大会です。自分の限界を決めずに、さらに大きな大会へ出場できるように、通信・県大会に食らいついていきます。何事にもあきらめない心をもち、大会に挑んできます。

2走から3走へ

**３年女子Ｓ**　私は第４走者（アンカー）です。第３走者からバトンを受け取ったら、一生懸命ゴールに向かって走ることだけを考えています。決勝で予選レースよりもタイムが上がりませんでしたが、その一因は、バトンパスのタイミングがやや詰まってしまったことだと思います。下越大会後の練習では、リレーメンバー全員のタイムも上がってきているので、好結果が出ると信じています。個人種目の 100m 走では、手を大きく振ることと後半腰の位置が落ちて失速しないようにすることを心がけて走ります。

3走から4走へ

優勝カップを獲得！

# 下越地区大会②　2年生も大活躍！4名が県大会へ

**陸上競技部　２年女子Ｉ　１５００ｍ　第７位　記録５分 22 秒 52**

私は、下越大会に８００ｍと１５００ｍに出場しました。どちらの種目でも自己ベストを更新できてうれしかったです。１５００ｍの予選は、レース中にとても雨が強く降り、走るのが大変でしたが、決勝へ進むことができました。決勝レースでは、走っている途中で、自分が今、もしかしたら入賞できるかもしれない位置を走っていることに気付き、今出せる力を出し切って、自己ベストタイムを 10 秒縮めて７位に入賞することができ、県大会出場を決めることができました。県大会では、５分 10 秒台を出したいです。そのために、これからの練習をもっと頑張ります。

**陸上競技部　２年男子Ｙ　四種競技　　第６位　1495 点**

僕が、今回の下越大会に臨むにあたって目標としたことは自己ベストを更新し、入賞することでした。そのために、今まで四種目（110m ハードル、砲丸投げ、高跳び、400m）の練習をしてきました。四種目の力を付けるために、一日一日の練習メニューが違っているので、４種目それぞれの身体の使い方を覚えることが難しかったです。大会の前日はとても緊張して、大会当日にもとてもプレッシャーを感じましたが、競技中は自己ベストを出すことと入賞することだけを考えて集中していました。県大会では四種競技という種目に出場します。県大会までに、４つの種目それぞれで自己ベストを更新して、四種目競技の合計点数を上げることが今後の目標です。

**柔道部　　２年女子Ｓ　　個人戦　第５位**

私の下越大会での目標は県大会出場権を獲得することと市内大会の時よりいい試合をすることでした。この目標を達成することができました。大会までの練習では今まであまり取り組まなかった技を練習したり、打ち込みや乱取りを顧問の大久保先生に見てもらったり、先生から相手をしてもらいながら具体的なアドバイスをもらうことができました。当日の試合前のアップでは、１年生の部員が相手をしてくれて、いいコンデイションで試合に臨むことができました。県大会では、下越大会よりも自分が納得できるいい試合をしたいです。

**剣道部　　２年男子Ｉ　　個人戦　第５位**

僕は下越大会個人戦でベスト８に入賞し、県大会出場権を獲得することができました。６月の市内大会では個人戦３位という結果だったので、下越大会では３位以上を目標として試合に臨みました。当日は、緊張やプレッシャーで自分の思うような試合ができませんでした。しかし、後輩の部員たちや顧問の田中先生の応援が自分の力になり、ベスト８というところまで勝ち進むことができたと思います。県大会でも、応援してくださる人たちの期待を裏切らないような試合をしたいです。

# 下越地区大会③　陸上競技部の活躍の記録

**３年男子Ｇ　１００ｍ　第８位　11 秒 88　／　２００ｍ　第７位 24 秒 57**

下越大会での目標は、自己ベストの更新と県大会出場権獲得でした。レースで走っている時には、腕の振りとまっすぐに走り抜くことに気を付けています。コーナーワークを使って加速を付けて走る方が得意なので、100m では無理でも 200m で県大会出場権が獲得できると考えていました。200m 決勝レースのスタート位置に立っているときにチームの皆なの大きな声援が聞こえて、緊張がほぐれて、レースを走るための力が湧いてきました。大会前日には、僕のために家族が消化の良い食べ物をつくってくれました。県大会では、家族や周囲の人への感謝の気持ちを忘れずに、自己記録更新を目指して走ります。

**３年男子Ｗ　110mハードル　第６位 18 秒 30**

下越大会では、110m ハードルと四種競技に出場しました。「このレースが中学校生活のラストランになるかもしれない」という気持ちで全てのレースに臨みました。四種競技では〈全力を出すこと〉〈楽しむこと〉を考えて競技しました。110mH では、決勝レースにまで進むことができ、県大会出場権を得られて嬉しかったです。決勝ではベストタイム更新と上位入賞をねらって走りました。自己記録を約 3.3 秒も上回ることができたので、自分でも驚いています。県大会では、17 秒台を出し、少なくとも準決勝進出を目標に走ります。

下越陸上大会では、県大会へ出場できる選手の数がとても多くなってよかったです。応援していた部員たちも積極的に取り組み、大きな声が出ていました。（佐藤）

**下越地区大会　主な結果（８位までが入賞）**　「◎」印の付いている選手は県大会へ出場します。

| 学年　名　前 | 種　目 | 順位　記録 | 学年　名　前 | 種　目 | 順位　記録 |
|---|---|---|---|---|---|
| ◎３年 佐藤 | 100m | **優勝** 12 秒 66 | ◎３年 樋口 | 走幅跳 | **３位** 4m63 |
| ◎３年 後藤 | 100m | **８位** 13 秒 51 | ◎３年 五十嵐 | 走幅跳 | **７位** 4m40 |
| ◎３年 佐藤 | 200m | **２位** 27 秒 24 | ◎３年 後藤 | 走高跳 | **５位** 1m30 |
| ◎３年 伊藤 | 100mﾊｰﾄﾞﾙ | **２位** 16 秒 25 | ◎３年 伊藤 | 四種競技 | **７位** 1781 点 |
| ３年 野本 | 円盤投げ | **２位** 18m82 | ２年 松野 | 円盤投げ | **８位** 13m55 |

# 7月前半も、全校生徒が猛暑に負けずにがんばってます。

7月7日（金）　五十嵐先生の技術科の授業（1年生）

7月8日（土）　3年生PTA親子レクリエーション

7月 10 日（月）　佐々木小6年生が来校し、小・中学生が一緒に佐中サーキットに取り組みました。ファイト～ッ！

毎朝、生徒玄関で、委員会単位でのあいさつ運動が行われています。　（7月7日（月）と７月 12 日（水）の様子）

# 一年生　自分たちの住む地域を知るための訪問学習

佐々木中学校では全校で『キャリア教育』を推進する体制づくりを進めています。３年間のキャリア教育を通じて、佐中生が「目標に向かって努力する姿勢を身に付ける」「体験活動や職業の学習をもとに自分の将来の姿を考える」「自分の暮らす地域を知るとともに、自分のよさや適性を把握する」ことを目指しています。そのキャリア教育の一環として１学年では、７月６日（木）に、地域に足を運び、４つのテーマについて学習しました。その４つのテーマは、①お寺や神社について　②いちごについて　③昔の佐々木中学校について　④そばについて　です。各訪問先ではたくさんの話を丁寧に、分かりやすく聞かせていただき、自分たちの住む佐々木地域の歴史や特徴について知ることができたとともに、私たちの郷土のよさについても改めて学習することができました。１学年では今回の学習をもとにしながら、豊かなキャリア教育を推進して行きます。

**①　長願寺住職　　北条さん（下興野）**

お話のなかの「稲荷神社は農作物（お米）がたくさん獲れますようにという願いで造られた」ということを初めて知りました。そして、昔は商売ではお金ではなく米で売買をしていたことをしりました。私はこの２つのことにとてもびっくりしました。（佐藤）

**②　いちご栽培農家　　石澤さん（鳥穴）**

僕はいちごの食べ方についてのお話が印象に残りました。へたが立っているいちごが甘くて、しなっているいちごがすっぱいということです。そして、白いものは全般的にすっぱいということでした。いちごをおみやげにいただき、ありがとうございました。（吉田）

**③　元小学校の校長先生　津野さん　（上中沢）**

私は、「昭和 39 年の新潟地震の時に、当時の佐々木小学校の建物が傾いた。」というお話が心に残りました。私は震度５弱くらいの地震は体験したことがありますが、もっと強い震度の地震におそわれたら、きっととても怖いだろうなと思いました。（齋藤）

**④　そばの栽培　　前田さん　（飯島甲）**

お話の中の「そばは成長が早い」ということが印象に残りました。「種をまいてから約 75 日で収穫できる」と聞いてびっくりしました。また、「湿気に弱い」など初めて聞いたことばかりですごく勉強になりました。　（木滑）

# 平和の大切さと有り難さを学びました

６月 27 日（火）に、被爆体験者講演会を行いました。新潟県原爆被害者の会の会長を務める山内悦子さんから「１７歳で被爆して」というタイトルの講演を聞きました。講演の後には、『朗読劇　～夏の空　1945 年あの日あの時』を聞きました。山内さんはご高齢にもかかわらず、約 20 分の講演を、イスを使わずに生徒の前に立ってお話をしてくださいました。（８月６日に広島へ原爆が投下された際に、爆心地から約 2.3 キロしか離れていないところで被爆されたとお話しされました。）

山内さんは全校生徒に、「世界の人と仲良くし、将来は日本の発展のために尽くしてほしい」「世界と互していくために学問を積んでください」「学問がないから争いが起きるのです」と話してくださいました。

**２年女子Ｓ**

講演会を聞いて思ったことは、実際に被爆にあうと体がやけどして、皮膚がはがれてしまう怖さや、被爆にあって差別を受けたり、いじめられたりする怖さ、そしてがんなどの病気になってしまうかもしれない怖さなどがあるんだなと思いました。これからの未来に、原爆が投下されるといったようなことが起こらないように、自分ができることからがんばっていきたいと思いました。

**２年男子Ｔ**

講演会でお話を聞いていろいろなことを学ぶことができました。空襲とはおそろしいことだということは想像していましたが、講演を聞いて、想像していた以上に恐ろしいものなんだなと思いました。山内さんの体験されたことを聞いて、改めて、戦争や空襲や原爆投下などはもう絶対にやらない方がいいと思いました。今回の講演を聞きながら、とても悲しい気持ちになったし、想像するだけでもとてもぞくっとするような話がたくさんありました。残された人も殺されてしまった人も誰もが悲しさ、苦しさなどの色々な気持ちでいっぱいだと思います。だから、戦争などは決してしてはならないと心から思いました。

（被爆体験者講演会と同じ時期に、「新発田市原爆パネル展」が１階の職員室前廊下に展示されました）

“まいろーど”（白神道子さん、熊谷絵里子さん）による朗読劇では、広島への原爆投下を題材とした下記のようないくつかの詩が朗読されました。

| | |
|---|---|
| ○峠　三吉 | 「仮繃帯所（ほうたいしょ）にて」 |
| ○栗原貞子 | 「生ましめんかな」 |
| ○林　幸子 | 「ヒロシマの空」 |
| ○水野潤一 | 「しづかに歩いてつかあさい」 |

夏休みにぜひ読んでみて、今回の講演会の内容を思い出してみましょう。